

「水曜サロン with 赤堀会長」第6期 第10回(通算85回)

マイクロソフトが考える生成 AI 時代の学び方と働き方

1. 内容

○生成 AI の導入と活用:

- ・ OpenAI 社との提携により、Copilot (副操縦士) というブランドで提供。あくまでも人間が“操縦士”。
- ・ Copilot は教育委員会/学校では Office365 の A1 ライセンスでも利用可能 (Office 各ツールと連携した Copilot は有償ライセンスが必要)。

○AI ツールの安全性とデータ保護:

- ・ 組織 ID を使用することで入力されたデータが保存されず、また学習に使われない。
- ・ 著作権問題への対応と安全な AI 環境の提供

○学校での具体的な活用例:

- ・ 子供が作った俳句へのフィードバックを生成 AI から得て、それをもとにした対話的な学びの実現。
- ・ 先生 = 正解ととらえられがちだった教室環境の中に第三者としての生成 AI がいることで、子供たちは安心して批判的な考えを表現できる。
- ・ 教師が生成 AI と対話しながら授業計画や教材、振り返りアンケートを作成。教師としての授業の振り返りを対話でサポート。

○将来の展望:

- ・ 生成 AI が教育を大きく変える可能性があるが、教師の役割は、寄り添う存在としての広がりなど、これまで以上に重要になる。

2. 所感

前段で、マイクロソフトが提供する Copilot の安全性やデータの保護についてご説明がありました。入力したデータは保存されず、LLM の学習にも使われず、また、生成物の著作権侵害についても会社として担保されており、安心して利用できる環境ができていると感じました。

また、英語の音読評価や小テストに嵐のメンバーを登場させる工夫など、すぐに使いたくなるような事例もご紹介いただきました。最も印象的だったのは、ご説明の中にあつた東京学芸大学附属小金井小学校の先生のコメントで、これまで教室の中には正解としてとらえられてしまう先生と子供しかいなかったが、第三の存在として生成 AI が加わることで、子供は教室内で批判的に思考し、表現することができるようになった、ということでした。教室内の空間の自由度や (言い過ぎかもしれませんが) 心理的安全性が高まることで、子供自身が自由に考え、表現する場面が増え、それによって思考力・表現力がこれまで以上に育まれていくだろうという期待をもつことができました。そのような空間づくりも先生の役割となり、生成 AI をうまく活用することで実現可能だろうと感じました。

本日の講演を通じて、生成 AI の可能性と課題について深く理解することができましたし、今後の学校現場での活用に大きな期待を感じることができました。宮崎様、貴重なお話をありがとうございました。